



稚内北星学園大学 まちなか振興支援室

身近な地域に残る「戦争の悲劇」を風化させないために

2017年11月23日（木）10時00分～11時30分、稚内北星学園大学（主催）、稚内市教育委員会・稚内市（後援）により「三船遭難事件を語る会」を開催しました。

「三船遭難事件」では、樺太からの引き揚げ船である小笠原丸、第二号振興丸、泰東丸の3隻が国籍不明の船からの攻撃を受け、乗船していた1700名余りの方が亡くなられました。この事件には、昭和の大横綱である「大鵬」も「小笠原丸」に乗船していました。大鵬の母親の船酔いがひどく、偶々稚内で下船したため難を逃れたとされています。

今回、講師をお願いした稲村和雄さんは、この3隻のうちの1隻（第二号新興丸）に乗船していた方です。稲村さんは、襲撃を受けた時の乗船していた人たちの様子や多くの死者と隣合わせの状況下で自分がどんなことを感じていたかなどを「墨絵」で表現したものを使用し、来場した市民に細かく生々しく語ってくれました。

